青かし

烏山北小学校の教育目標
◎すすんで学びよく考える子ども
〇豊かな心をもち仲良く助け合う子ども
〇すすんで健康な体をつくる子ども
重点目標 みとめあい まなびあい そだてあい

＜目指す児童像＞「かしこい子」「らしさを大事にする子」「きりつ正しい子」「たくましい子」

令和７年９月１日（月）
創立７３周年　Ｎｏ．５

烏山学舎　世田谷区立烏山北小学校　校長　河野　芳浩
〒157-0061 世田谷区北烏山6-3-1 TEL3300-5764 FAX3300-5785
学校HP　http://school.setagaya.ed.jp/kata/

私たちの居場所は、「自分でいてよかった」と思えるいい場所に♪　校長 河野 芳浩

先日、子どもの発達支援に関する講演を拝聴する機会がありました。講演では、「子どもを育てるには村が必要」というアフリカのことわざを引用し、子育ては家庭だけでなく、地域全体の関わりが必要であるという力強いメッセージが語られました。

子どもの育ちをロケットに例えると、子ども自身の力がロケット本体、家庭が発射台、そして地域や集団が補助ロケットです。発射台が安定し、補助ロケットがしっかりしていれば、子どもはまっすぐ飛び立つことができます。逆に、家庭が不安定だったり、集団が排他的だったりすると、子どもは飛び立てず、非行や自傷などの形で「居場所がない」と抗議することがあります。

また、講演では「doing（行動・成果）」と「being（存在・その人らしさ）」という視点が紹介されました。社会はどうしても“doing”で子どもを評価しがちですが、実は“being”の多様性こそが、子どもたちの育ちにとって大切なのです。

子どもは常に「背伸び」と「甘え」の間を揺れながら育っていきます。挑戦するには、失敗しても受け止めてもらえる安心感が必要です。だからこそ、私たち大人は「何かしてほしい」ではなく、「そこにいてくれてよかった」と伝える関わりが大切なのです。

WHOは「健康とは、病気がないことではなく、身体的・精神的・社会的にwell-beingが保たれていること」と定義しています。子どもが「この自分でよかった」と思える感覚、それがwell-beingです。

私たちが目指すべき社会は、子どもの“being”を尊重し、多様な“being”を受け入れるコミュニティです。学校、家庭、BOP、児童館、地域がそれぞれの役割を果たしながら、子どもが「いたい」と思える居場所をつくっていくことが、真の支援につながります。

２学期が始まります。学校、BOP、児童館など、子どもが関わるすべての関係諸機関が、横のつながりを大切にしながら、いつも喜び、たえず考え、すべてのことに感謝し、子どもたちの育ちを支えるために共に歩んでまいりましょう。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

夏休み期間中、学校では、寺子屋、日光林間学園などが行われました。

寺子屋では、お琴体験、紙飛行機づくり、紙のステンドグラス、再生紙のリースづくりなど楽しいワークショップを行いました。学校支援コーディネーター、PTA、地域の皆様などたくさんの方々にお手伝い、ご協力をいただきました。感謝いたします。ありがとうございました。

日光林間学園は、天候に恵まれ、奥日光の自然を満喫することができました。6年生が協力し合って、楽しい2泊3日の生活を作り上げることができました。